この時間のねらい:① 移動・伸縮・回転させるための関数を使えるようになろう。③

今回の内容は、回転の rotate()関数になります。この関数を使うためには本来は数学 II で 学ぶ「弧度法」の知識が必要になります。そのため、可哀想ですが、授業はプログラミング なのに数学をやらなければいけません。ということで、以下から始めていきます。

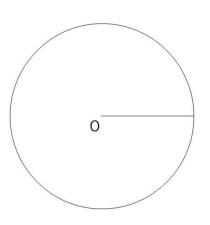
・弧度法とは

皆さんが親しんでいる角度の表記法は 60°という表記方法だと思います。これは と言い、を数値で表す方法になります。度数法のほかに角度を表記するための手 法として、タイトルにもある____というものがあります。 弧度法での単位は_____もし くは、____の2種類があります。ただ、弧度という単位を使う人は少ないイメージがありま す。なので、覚えておくのは____でよいでしょう。そして、基本的に弧度法の値に活用 するものはになります。それでは、どのように定義をしていくのかを見てみま しょう。

・弧度法の定義方法

右の円を考えます。半径は1です。ここで適当な2点 A, B を書きましょう。その時の____の長さを__とすると その時の角度は____となります。要するに____ によって角度を定義するという考え方になります。

ここで、基準を決めるため、この円の半円の弧の長さ を求めましょう。弧の長さの求め方は覚えていますか? 中学校の頃に学んだ内容だと思いますが、忘れている人 が多いかもしれません。以下の公式を使います。



弧の長さ1を求める公式:

半円の場合、 であるので、最終的な結果は になります。このことから、基準 として 180°=____という等式が成り立ちます。これをもとにして、例えば、 90° = $,60^{\circ}$ = $,30^{\circ}$ = のように計算することができる。 以下の練習問題によって度数法から弧度法への変換を練習しましょう。

練習問題

(1)
$$45^{\circ} =$$
 _____ (2) $120^{\circ} =$ ____ (3) $135^{\circ} =$ ____

$$(2) 120^{\circ} =$$

(4)
$$1^{\circ} =$$
 (5) $160^{\circ} =$ (6) $360^{\circ} =$

$$(5) 160^{\circ} =$$

表の内容にて、弧度法への変換がなんとかできるようになったかと思います。では、続いて rotate()関数の使い方になります。実際にプログラムに打ち込む方法としては、9回目のプリントにあるため、必要があれば参照してください。

ただ、この関数でやっていることを知らないと、奇妙なバグが起きる可能性があります。それは、回転させたい図形を画面外へ移動させてしまうというものです。今回学んでいる、rotate()関数は、____自体を回転させる関数になっています。そのため、人間側が座標を意識しておかないと考えづらい内容になっています。以上の内容を確認・修正できるように、次からの演習問題をやってみましょう。

演習問題1

```
sketch_210526a void setup() {
//ウィンドウを表示させる関数を記述
}
void draw() {
//三角形を描画する関数を記述(大きさは指定しない)
}
```

演習問題 2

演習問題1で作成したプログラムに本日学んだ rotate()関数を利用して、90° だけ反時計回りに回転させる命令を記述しなさい。

演習問題3

演習問題 2 のプログラムを実行すると、三角形が画面上にない状態になっている。これを改善させるため、translate()関数を利用して、三角形内部の位置を原点に設定することで、画面内に表示させられるように改良を行いなさい。

(場合によって、変数宣言をすることでやりやすい状態になります。)